

beyond the Tokyo.東京を越える TOKYO へ。

「東京ミチテラス 2018」開催決定！

2018年12月24日(月・祝)～12月28日(金)

様々なジャンルで活躍する映像クリエイターが東京・丸の内エリアに集結。
時空をつなぐ「ひかりのゲートウェイ」を創出します。

- 東京ミチテラス2018 実行委員会(会長:東京商工会議所専務理事 石田 徹)は、本年12月に、「東京ミチテラス2018」を開催することを決定いたしました。
- 本年の演出テーマは、「ひかりのゲートウェイ」。2020年へのカウントダウンが始まり、平成から新しい時代へと移り変わろうとするなか、日本の玄関口である東京・丸の内エリアに、『新しい時代への扉』として、『多くの皆さまをTOKYOにお迎えするエントランス』として、「ひかりのゲートウェイ」を創出します。
- 演出は、国内外で高い評価を受けているパフォーミングアーツカンパニー「enra」主宰で、映像作家の**花房伸行氏**、プロジェクションマッピング事業開発および空間演出事業にも携わり、特殊映像装置を活かしたコンテンツ制作を数多く手掛ける**渡辺雅也氏**、広告における映像表現から、展示スペースにおけるインスタレーション映像、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスのデザインまで幅広いデザインワークを展開するビジュアルデザインスタジオ**WOW**など、映像の垣根を超えて様々なメディアで活躍する映像クリエイターが集結。多様なひかりのゲートを開きます。
- 行幸通りでは、「ひかりのスタディオン」を展開。東京駅丸の内駅舎へとつづく無数のひかりの列柱や、特殊映像、樹木イルミネーションなどが織りなす“幻想的なひかりの体験”を演出します。
- 東京駅丸の内駅前広場では、「ひかりの円舞曲(ワルツ)」を展開。駅舎への映像投影と、駅前広場でのワルツのようなリズムカルなライティングの動きを連動させた、光のインスタレーションを創出します。
- 丸の内周辺エリアでは、「ひかりのリフレクション」を展開。ひとと街を照らし未来を映す「鏡」と、現代の映像技術やライティング技術を融合したインスタレーション作品が登場します。



※画像は行幸通りのイメージです
※駅舎への映像投影はプロジェクションマッピングではありません

■開催趣旨

東京駅周辺エリアは、「歴史」と「未来」と「文化」が共存する、多様な側面を持った街です。歴史、伝統、文化、学術、ビジネス、先進性がダイナミックに融合する唯一無二の街として、日本と東京を繋ぐ結節点として、また、世界と日本を繋ぐ結節点として、今日も進化を続けています。

同エリアにおいて、年末の光のイベントは、1999年の「東京ミレナリオ」の開催以来、恒例の冬の風物詩となっていますが、今年も、東京・丸の内エリアから、未来を明るく照らしていこう(未知を照らす)という願いをこめ、「東京ミチテラス 2018」を開催いたします。

■実施概要

企画名称：東京ミチテラス 2018

開催期間：2018年12月24日(月・祝)～12月28日(金)予定 ※一部は12月14日(金)より開催予定

会場：東京・丸の内エリア

主催：東京ミチテラス 2018 実行委員会

(構成団体) 東京都、千代田区、東京商工会議所、東日本旅客鉄道株式会社、三菱地所株式会社、株式会社東京国際フォーラム、NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、株式会社ジェイアール東日本企画(順不同)

後援：国土交通省観光庁、東京都、千代田区、公益財団法人東京観光財団、千代田区観光協会

特別協賛：東日本旅客鉄道株式会社、三菱地所株式会社

※後援、特別協賛は予定です。※開催期間・企画内容などは9月14日現在の案であり、変更となる場合があります。

■演出テーマ

ひかりのゲートウェイ

2020年へのカウントダウンがはじまり、平成から新しい時代へと移り変わろうとするなか、日本の玄関口である東京・丸の内エリアに、『新しい時代への扉』『多くの皆さまをお迎えするエントランス』をイメージして、「ひかりのゲートウェイ」を創出します。

■企画概要

ひかりのスタディオン

【会場：行幸通り 会期：12月24日～28日(予定)】

東京駅丸の内駅舎へと続くひかりの列柱が織り成すダイナミックな陰影、重なり合う紗幕映像などの特殊映像が作り出す美しい移ろいと煌めき、通りを包み込む樹木イルミネーションの輝き。それらの光の掛け合わせによりつくりだされる巨大な「ひかりのスタディオン」から見えるのは、美しい陰影に包まれる東京駅丸の内駅舎。優雅で幻想的なひかりの世界をお楽しみください。

ひかりの円舞曲(ワルツ)

【会場：東京駅丸の内駅前広場 会期：12月24日～28日(予定)】

美しい陰影に包まれる東京駅丸の内駅舎への映像投影による演出。駅前広場には“ワルツ”のようなリズムカルなライティングの動きが加わります。

※「ひかりの円舞曲(ワルツ)」は行幸通りからの観覧となります。 ※駅舎への映像投影はプロジェクションマッピングではありません。

ひかりのリフレクション

【会場：丸の内周辺エリア 会期：12月14日～28日(予定)】

ひとと街を照らし未来を映す「鏡」と、現代の映像技術やライティング技術を融合したインスタレーション作品を展開。ユニークでフォトジェニックな作品が、丸の内周辺エリアを彩ります。

「ひかりのスタディオン」「ひかりの円舞曲(ワルツ)」「ひかりのリフレクション」が統一したストーリーで展開されるような演出をめざします。



ひかりのスタディオン



ひかりの円舞曲(ワルツ)



ひかりのリフレクション

※画像はイメージです。 ※開催期間・企画内容は9月14日現在の案であり、変更となる場合があります。

■参画クリエイター

花房 伸行 / ビジュアルアーティスト・映像クリエイター



プロダクツデザインを経て、映像の世界へ入り、TV、CM制作から、展示映像、ファッションショー、コンサートVJなど、多くのジャンルで活動。映像制作にとどまらず、イラストレーション、立体造形、ステージ空間演出、総合プロデュースなど幅広い分野で独自の表現を展開している。

国内では“ももいろクローバーZ”のライブ演出に不定期で参加。海外では、2012年にNYで現代音楽のバンド“THE BANG ON A CAN”とコラボレーションを行い、NY Timesで高評価を受けるなど、国内に留まらず、国際的にアートワークが認められている。

また同年、映像とダンスを融合したパフォーマンスアートカンパニー『enra』を設立。enraでは映像だけでなく、楽曲の制作も行い、映像・音楽・演出と、enraの世界観を構築する為の必要不可欠な要素を担っている。2017年から、長野県阿智村の「天空の楽園 日本一の星空ナイトツアー」のコンテンツディレクターに就任。

渡辺雅也 / 映像ディレクター



平面 / WEB / CG のデザイナーを経て、ディレクター & プロデューサーとして活動。特に博覧会やコンベンションの経験は豊富で、特殊映像装置を活かしたコンテンツ制作を得意とする。2010年からプロジェクションマッピング事業開発および空間演出事業にも携わり、数多くのプロジェクトのディレクションおよびプロデュースを手がける。

WOW / ビジュアルデザインスタジオ

東京と仙台、ロンドンに拠点を置くビジュアルデザインスタジオ。CMやVIといった、広告における様々な映像表現から、様々な展示スペースにおけるインスタレーション映像、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスのデザインまで既存のメディアやカテゴリーにとらわれない、幅広いデザインワークを展開している。



■アドバイザー

谷川じゅんじ / JTQ 代表 スペースコンポザー



2002年、空間クリエイティブカンパニー・JTQを設立。“空間をメディアにしたメッセージの伝達”をテーマに、さまざまなイベント、エキシビション、インスタレーション、商空間開発を手掛ける。独自の空間開発メソッド「スペースコンポーズ」を提唱、環境と状況の組み合わせによるエクスペリエンスデザインは多方面から注目を集めている。主なプロジェクトとしてパルルーブル宮装飾美術館 Kansei 展、平城遷都1300年祭記念薬師寺ひかり絵巻、NIKE WHITE DUNK、YOHJI YAMAMOTO Exhibition、GINZA SIX グランドオープニングセレモニーなど。

2018年現在、MEDIA AMBITION TOKYO アーティストティックディレクター、東京ミッドタウン日比谷 LEXUS meets...“HIBIYA”プロデューサー等を務める。